

東日本大震災に関する会長声明

この度の東日本大震災で被災された多くの皆様、および当会会員の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

また、隣県福島県の福島第1原子力発電所の被害も重大な事態が報道され、避難された方々の不安なお気持ちやご心痛を察するに余りあります。災害から十日あまりすぎた今、次第に被害状況も明らかとなり、死者行方不明者は2万人を超える未曾有の大災害であることがはっきりしました。

会員の皆様におかれましては、ご家族や近親の方々の被害はなかったでしょうか。もし、何かございましたら具体的な被害状況を事務局までご連絡いただきたいと存じます。

さて、3月18日、日本理学療法士協会半田会長より直接連絡があり、3月26日から日本理学療法士協会と日本作業療法士協会ほか8団体の協力の下、仙台市若林区(避難所)で、人的援助活動を始めます。具体的には各2名ずつのスタッフが避難所を回り、高齢者や障害者・要介護者に廃用防止の指導(運動指導・歩行や起き上がり指導・杖貸与など)を行う予定です。これらは診療行為ではなく、廃用症候群を防止するなどの一連の活動です。それに伴い、協会長ご自身が事務局メンバーと共に3月22日秋田県から東北入りし、そこから岩手・宮城の被災地へ移動、避難所を回りニーズを把握するようです。いずれは近県の当士会へも会員の人的援助の依頼がある予定です。

また、隣県から山形に避難された多くの方々も大変な不自由と心労のなか各避難所で生活しておられます。その中にも高齢者・障害者・要介護者が多くおられ、援助を必要としています。そこで、山形県内の避難者支援については山形県作業療法士会と共同でボランティア活動を計画しております。

これらに関して当会としましては、最大限の協力をすべく、支援ボランティア集団をそれぞれ組織したいと考えます。今後、公益事業推進部・業務推進部・広報部・事務部などが連携して2つの人的援助活動の推進に取り組みたいと思います。日程・場所・支援内容など具体的には今後の決定事項としますが、ぜひ上記の協力を会員の皆様にお願ひする次第です。今後はより具体的にこの活動に協力できる方々の参加アンケートを予定しております。

現在、私たちの生活も通常に比べて不自由ではありますが、被災者の方々の受けた痛手は計り知れません。このような時こそ会員一人ひとりが自分に何ができるかを考え、行動に移すべきと思います。

リハビリテーション医療専門職としての皆様のご協力を重ねてお願い致します。

平成23年3月22日
山形県理学療法士会会長 多田 利信